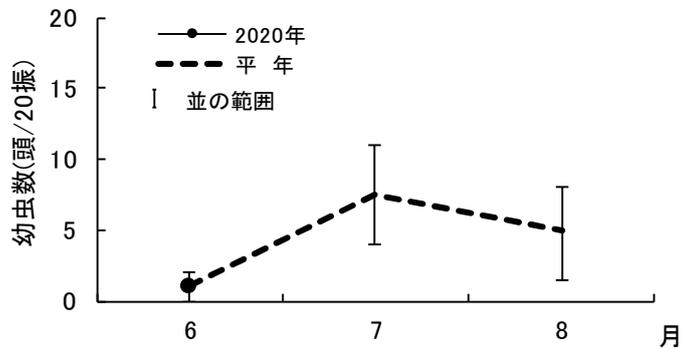


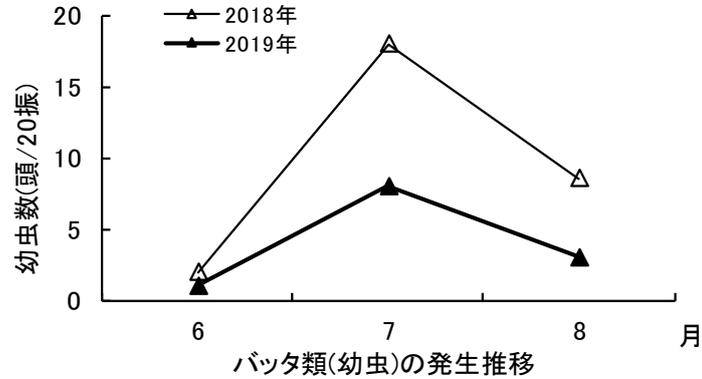
作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① バッタ類		
予報	7 月の発生量 (平年比)	並	
	6 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年間の推移



- ・発生ほ場率：75.0% (平年：55.9%)
- ・発生種：台湾ツチイナゴ、チュウゴクヒゲナガイナゴ

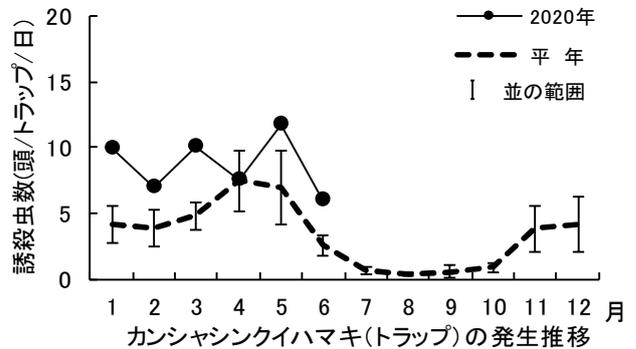
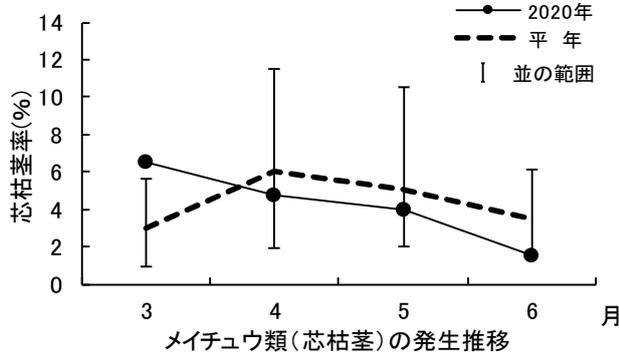
防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・幼虫期の防除が効果的なので、ほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

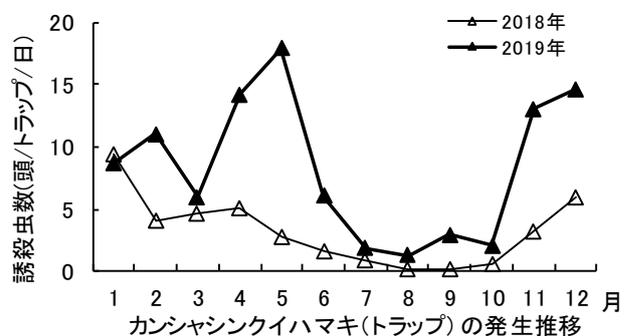
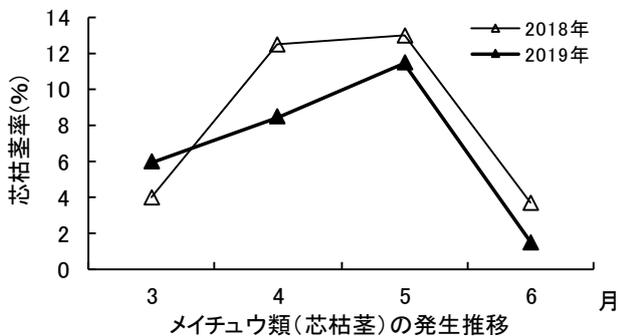
作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	② メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
予報	7 月の発生量 (平年比)	-	
	6 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今年と平年の推移



過去2年間の推移



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：68.8% (平年：91.9%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、86% (12/14頭) がカンシャシクイハマキであった。

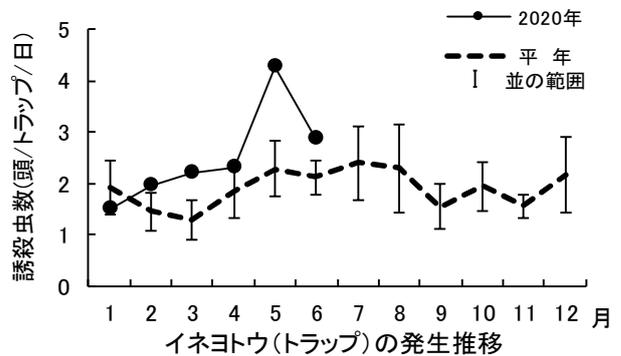
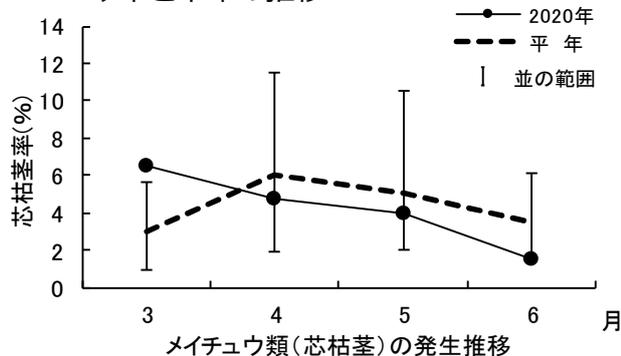
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

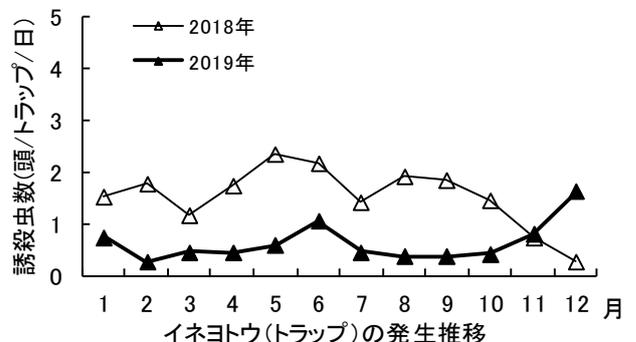
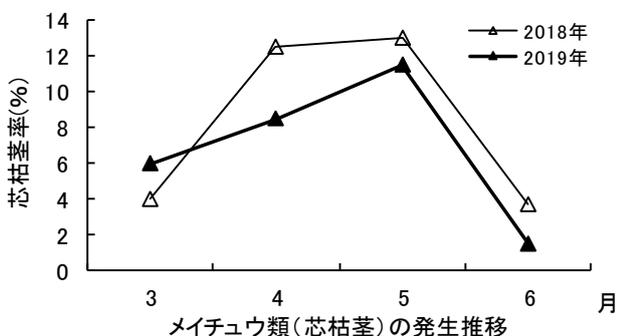
作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	③ メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	7月の発生量(平年比)	-	
	6月からの増減傾向	-	
予報の根拠	6月の発生量(平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今年と平年の推移



過去2年間の推移



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：68.8% (平年：91.9%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、14% (2/14頭) がイネヨトウであった。

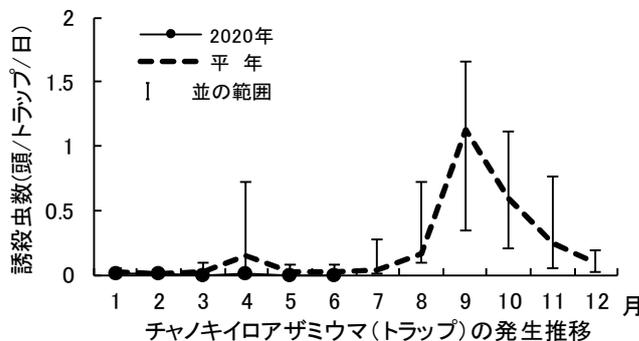
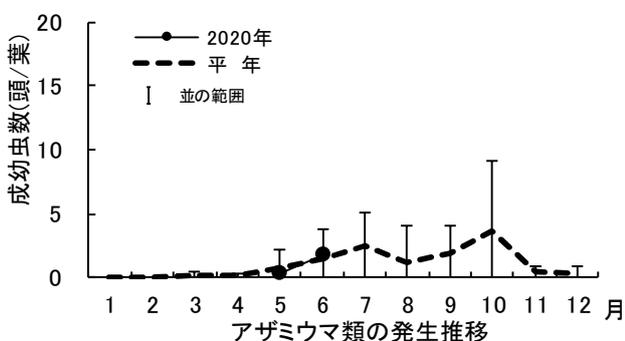
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

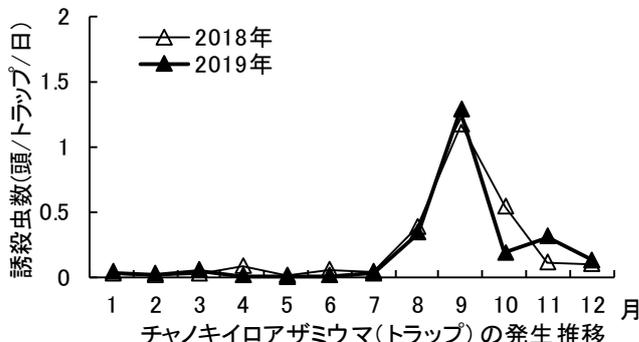
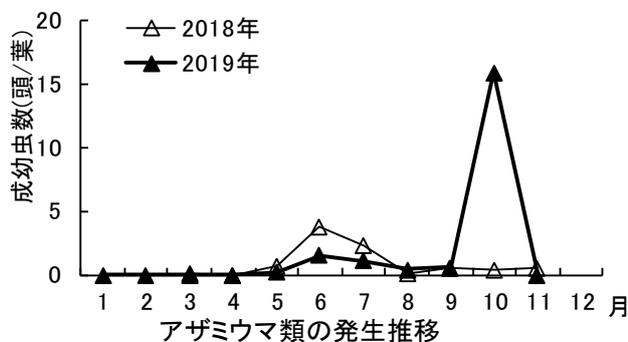
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
予報	7 月の発生量 (平年比)	並	
	6 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



・発生ほ場率：40.0%（平年：43.2%）

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ 収穫期に発生が多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

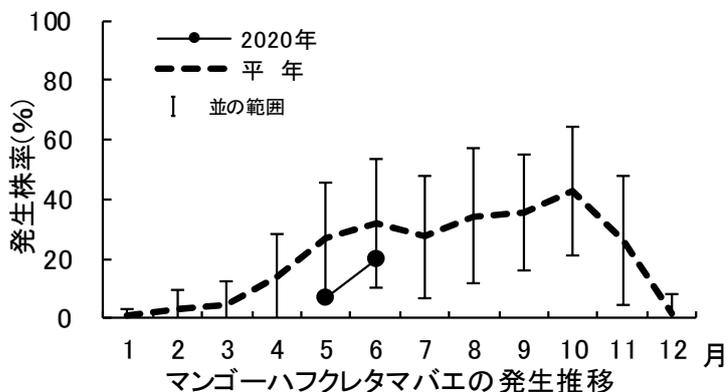


ナガエコミカンソウ

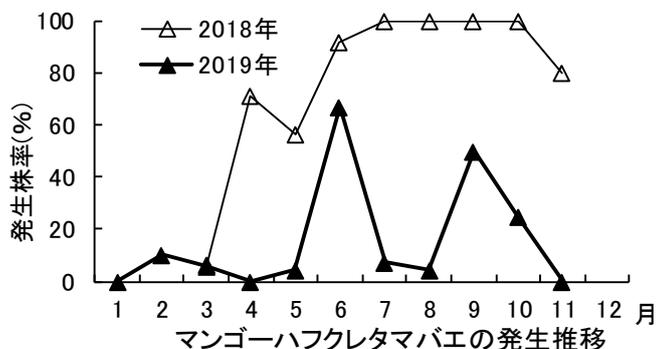
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
予報	7 月の発生量 (平年比)	並	
	6 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



・発生ほ場率：20.0% (平年：44.2%)

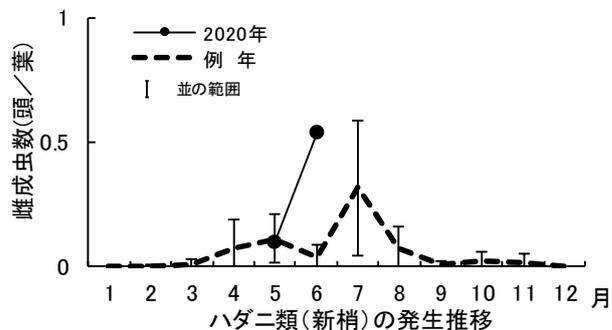
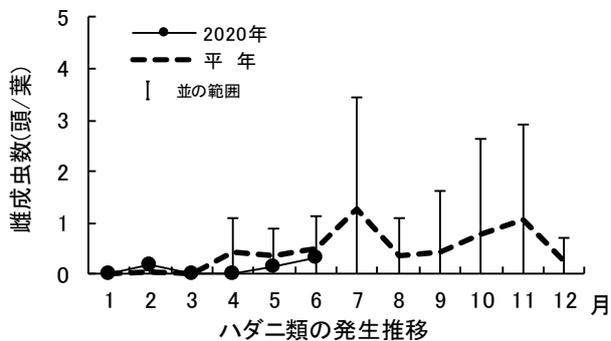
防除のポイント

- ・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

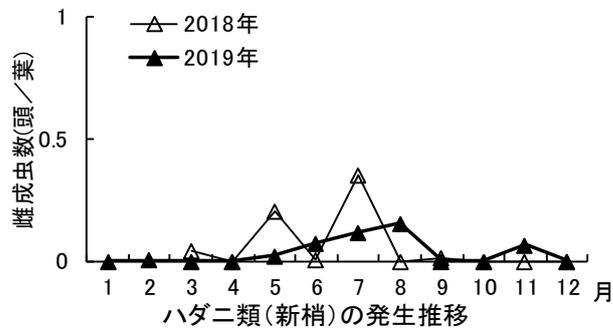
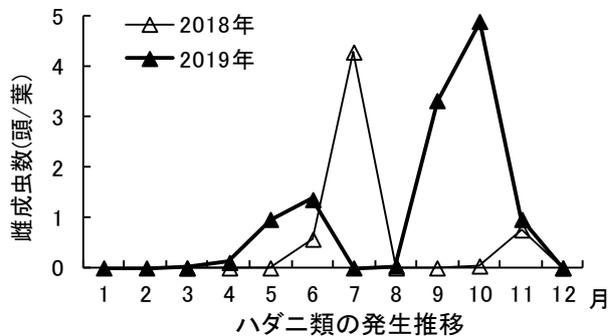
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	③ ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
予報	7 月の発生量 (平年比)	並	
	6 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



- ・発生ほ場率：40% (平年値：40%)
- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・一部ほ場で多発した

防除のポイント

- ・収穫終了後の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

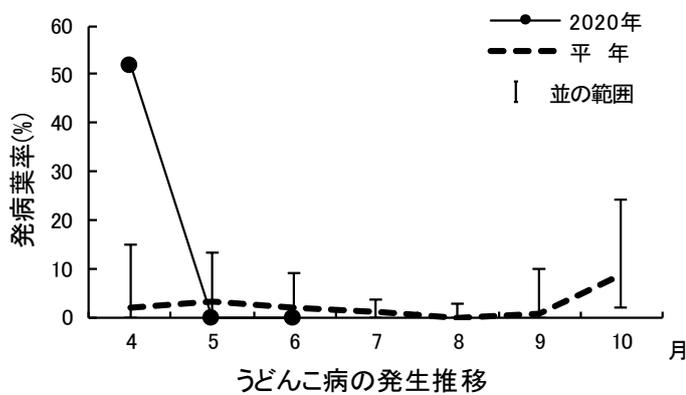


ハダニの寄生による葉のかすれ傷

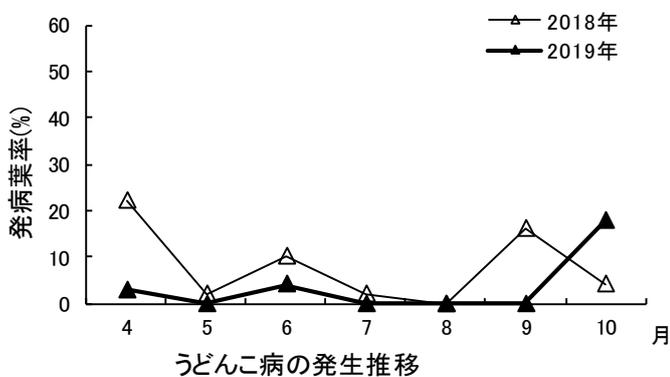
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病		
予報	7 月の発生量 (平年比)	並	
	6 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



発生ほ場率 : 0.0% (平年 : 68.4%)

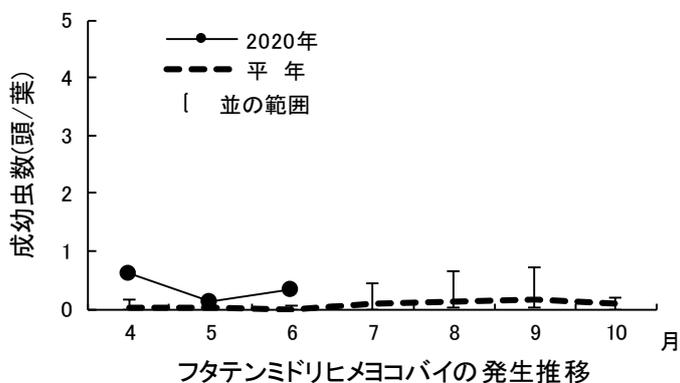
防除のポイント

- ・ 下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・ 窒素過多にならないようにする。
- ・ 草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

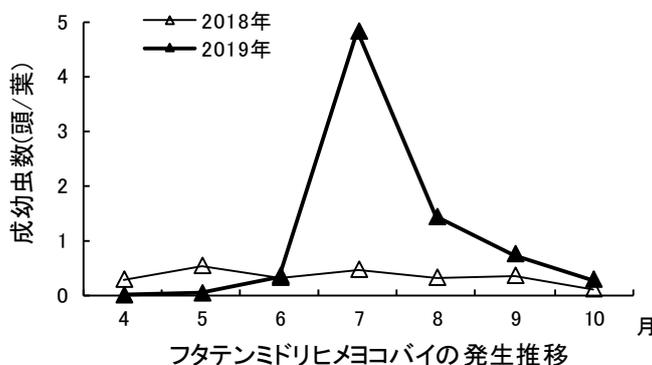
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		
予報	7 月の発生量 (平年比)	やや多	
	6 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



発生ほ場率：100% (平年：45.6%)

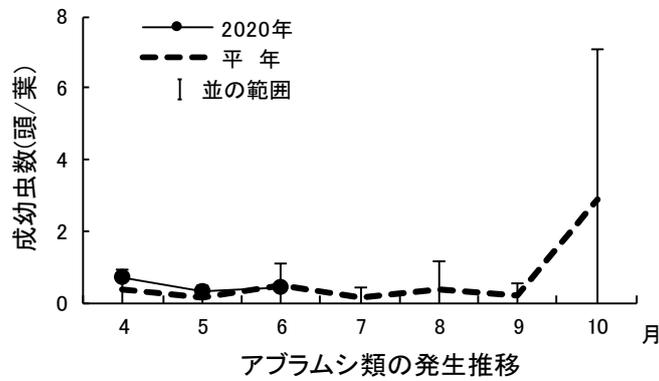
防除のポイント

- ・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

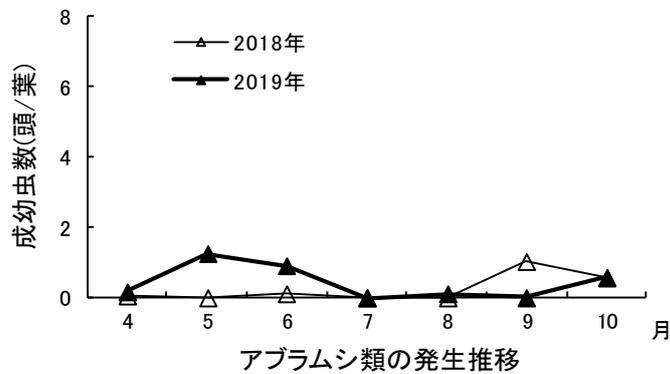
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	7 月の発生量 (平年比)	並	
	6 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



発生ほ場率：40% (平年：28.3%)

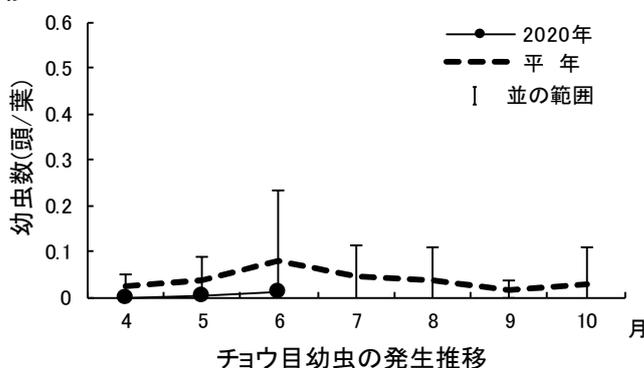
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

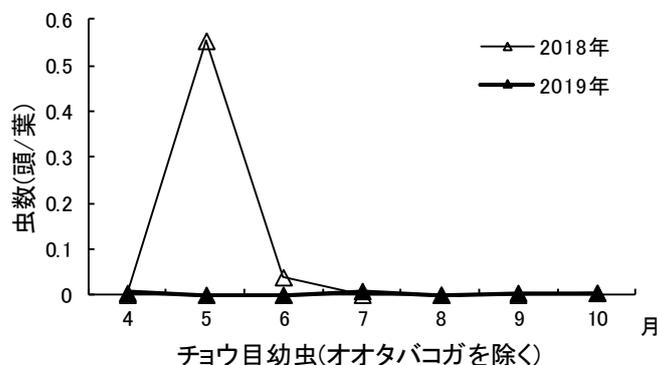
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫(オオタバコガを除く)		 <p>フタトガリコヤガ</p>
予報	7 月の発生量 (平年比)	並	
	6 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



- ・発生種：フタトガリコヤガ
- ・発生ほ場率：20.0% (平年：40.0%)

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。